



図書館 めくるくん通信

図書館 ☎ 69・3706

ダンチュウ

今年度から「dancyu」「ナショナルジオグラフィック(日本版)」「ハルメク」「月刊ニュースがわかる」「からだにいいこと」など、本館・分室合わせて、新たに 10 誌が仲間入りしました。いつも利用している分室にない雑誌は、本館や他分室より取り寄せできます。ぜひご利用ください。



図書館に入った本

毎月たくさんの本やCDが入るよ！
一部を紹介するね♪



『香り野菜が好き！』

さっぱり、ピリッとクセになる！
おかずとおつまみ』

堤 人美／著 家の光協会

清涼感のある香り野菜を使ったおかず、おつまみ、
ご飯・麺・汁もののレシピを紹介。



『若旦那のひざまくら』

坂井 希久子／著 双葉社

『新撰組の料理人』

門井 慶喜／著 光文社

『役に立たない人生相談2』

佐藤 愛子／著 ポプラ社



『浅田真央 また、この場所で』

浅田 真央／著 川島 小鳥／写真 集英社



『ニッポンおみやげ139景』

豊嶋 操／著 KTC 中央出版



『育てる楽しむ癒しの「苔ボトル」』

佐々木 浩之／写真 戸津 健治／文
コスミック出版



『西郷隆盛ラストサムライ』

上田 篤／著

※当館製作。ダイジー図書は本を読むのが困難な方に貸出する録音図書です。

貸出中の場合もありますので、本が見当たらない時は
お気軽に職員にお尋ねください。

読む



水族館



館長 小林龍二

竹島水族館
☎ 68・2059

■サバが今年もやってきた

数年に一度偶然のように三河湾の沿岸にやってくるだけだった「サバ」がここ最近では毎年回遊してきて、梅雨時のシーズンによく釣れます。まだあまり脂がのっていないためこの時期のサバはおいしくない。しかし水族館にとってサバは貴重な魚。スパーではよく見るおなじみの大衆魚ですが、輸送にすごく弱いので水槽内で生きて泳いでいる姿が見られません。水族館は全国でもかなり少ないのです。したがって、近場で釣ってすぐに運び水槽に入れられる展示成功

■最大のチャンスでした。

■入れ食いのサバ釣り

集合時間の早朝、港へ行くと5人来るはずの若手飼育員のうち2人しかいない。そのうち、すみません寝坊しましたと言ってヨレヨレワカメ歩行で来るだろう残りの飼育員たちを1人ずつ海へ突き落そう、サバ釣りに遅れると裁きをくらうのだ。サバでサバきだ。と考えていると、入れ食いで釣れ出したのでドンドン釣って岸壁に横付けしたトラックのタンクに入れていきます。我々の他にも釣りを楽しむ市民の皆さんで岸壁

■触らずにすぐ水槽へ

体を手で触ると弱ってしまうので慎重に針からはずし清潔な海水の張ったタンクにどんどん釣りためていきます。2時間ほどで150匹以上釣ってすぐに水族館へ。この運ぶ時間が長いと弱ってしまいますが、釣り場所は水族館すぐ横の東港なので問題なし。網を使うと弱るのでタンクから水ごと容器でサバたちをすくいとり、急いで水槽へ入れました。収容水槽は三河湾大水槽。大水槽と言っても大きな水族館から見ると小水槽規模の水量ですが、100匹以上

はいっぱいになり、ありがたいことにそばで釣る近所のオジサンたちも水族館での展示のためにどんどん釣って協力してくれました。

■群れる魚を群れさせる

サバは群れで生活する魚ですが、水槽の中ではすぐにダレてガラガラと泳ぐので、緊張感を持たせるためにサメを1匹入れます。全国の大型水族館で見られる「イワシの水槽」でも同じように群れにさせる役割でだいたいサメを入れていきます。何事も常に危機感は大事です。サメはお腹がすくと群れに突入・捕食をし、イワシが少なくなり定期的に補充が必要ですが、サバは上手く逃げるのでその心配はいりません。しかしもとも弱い魚なので、慎重に飼育をしています。

も並んで群れでキラキラしながら同じ方向に泳ぐサバはなかなかもって見ごたえ十分で近代水族館の景観が我が水族館にも出来上がりました。